



# インカ・ラッシングシステム 取扱説明書

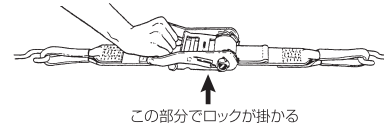
ご使用の前に、この取扱説明書を必ずお読み頂き、内容をよくご理解頂いたうえで、インカ・ラッシングシステムをご使用下さい。  
また、必要と思われる部署や現場には必ず配布し、必要な場合にはいつでも参照できるようにしておいて下さい。

## ラチェットバックル式の操作の仕方

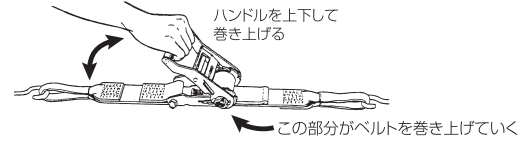
### 締め方



●両端を固定した後、調節側ベルトの端を引っ張りたるみを取ります。

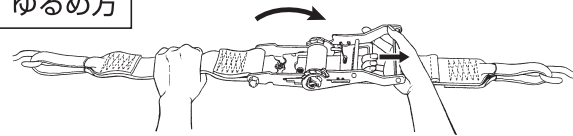


●ベルトを巻き上げて締め終わりましたら、必ずハンドルを戻し、ロックが掛かった状態を確認して下さい。



●ハンドルを上下させ、たるみの取れたベルトを巻き上げ締めていきます（たるみの取れていない状態で巻き上げていくと、ベルトを巻き込み過ぎて、作動不良を起こすおそれがありますので必ずたるみを取って下さい）。

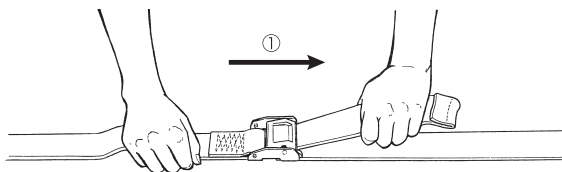
### ゆるめ方



●荷くずれするおそれがないことを確認したうえで、ハンドルの開放レバーを引きながら180度開きます。カチッと金具が外れる音がしてベルトがゆるみます。

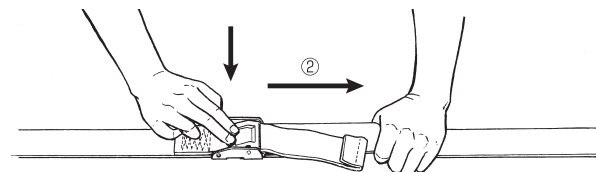
## カムバックル式の操作の仕方

### 締め方



●調節側ベルトを矢印①の方へ強く引いて荷物を固定し操作完了です。

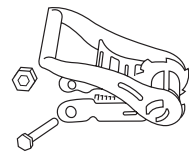
### ゆるめ方



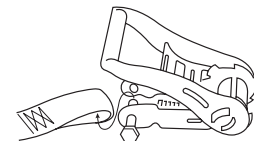
●カムを押すとベルトがゆるみます。調節側ベルトを矢印②の方へ引くとさらにゆるみます。

## 補修ベルトの取り替え手順

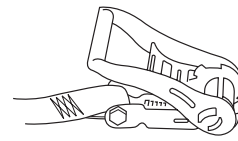
### 固定側取り替え方法



●固定側のボルト、ナットをはずします。

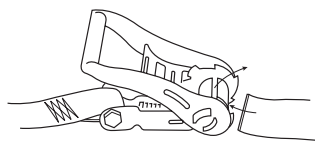


●新しい補修ベルトにボルトを差し込みます。

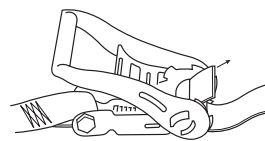


●ボルトを通し、ナットで締めて完了です。

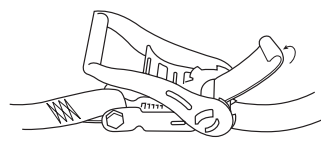
### 調節側取り替え方法



●ラチェットの軸の溝にベルトを入れます。



●ラチェットの軸に通し元の方向にベルトを出します。



●ベルトの先を丸めテープなどで、まとめると抜け止めになります。

この取扱説明書にある項目は、危険の程度によって次の2段階に区分しています。

	<b>危険</b>	取扱いを誤った場合に、危険な状態が起こりえて、死亡、または重傷を負う可能性が高いと考えられる場合。
	<b>注意</b>	取扱いを誤った場合に、危険な状態が起こりえて、障害を負う可能性が高いと考えられる場合、及び物的損害が考えられる場合。尚、『注意』に記載した事項でも、取扱い方法によっては『危険』と同じ状況になる場合があります。

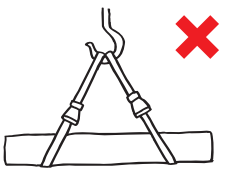
## 1 インカ・ラッシングシステムの選定にあたって

- インカ・ラッシングシステムの性能・特性を十分理解し、条件に合った製品を使用して下さい。
- 使用前点検で外観上不具合がないか調べて下さい。  
外観上不具合のあるものは決して使用しないで下さい。  
外観上の不具合については、④点検にあたってを参照して下さい。

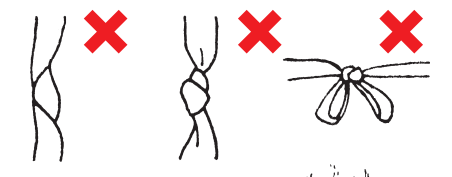
## 2 ご使用にあたって

### 危険

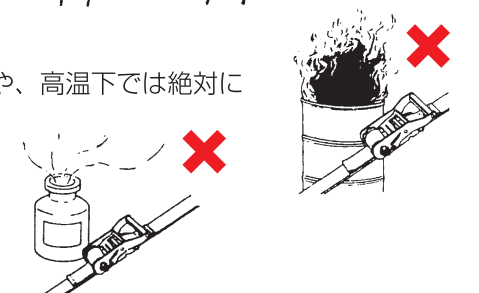
●インカ・ラッシングシステムは荷物の固縛、緊締、結束作業を目的に製造されています。玉掛け作業には決して使用しないで下さい。玉掛け作業に使用されますと製品が破断する可能性があります。玉掛け作業を行う場合は『インカ・リフティングスリング』『インカ・ラウンドスリング』をご利用下さい。



●ベルトはねじれた状態では使用しないで下さい。また、結び目のあるもの、2本以上のベルトを結んだ状態のもの、ベルト同士を互いに引っ掛けた状態のものは強度が著しく低下しますので決して使用しないで下さい。



●ベルトは化学繊維ですので、火気を有する場所や、高温下では絶対に使用しないで下さい。大変危険です。

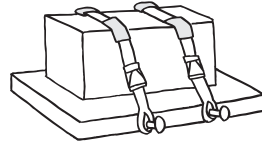


●薬品の雰囲気内ではご使用にならないで下さい。

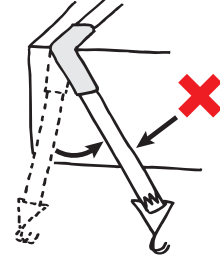
2 ご使用にあたって 続き



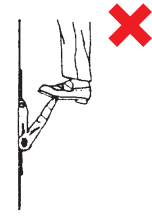
● 摩耗のおそれがある荷や、角張った荷を固縛する場合は破断荷重が低下しますので必ずコーナーパットを使用して下さい。



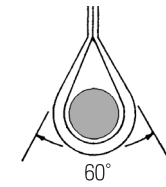
● 端末金具とベルトの引っ張り方向を常に真っ直ぐにして下さい。斜めになると強度が著しく落ちるおそれがあります。



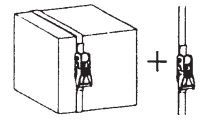
● ラチェットタイプで荷締めを行う場合、腕力以上（別の道具を差し込んだ操作や足で踏みつけるような操作）のトルクを与えないで下さい。



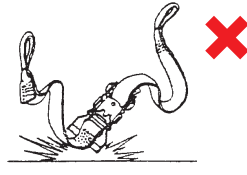
● 端末がアイ仕様をご使用の場合、アイ部の角度が60度以内になるように選んで固定して下さい。無理に大きなピンに引っ掛けますと強度が低下しますのでご注意下さい。



● インカ・ラッシングシステムの性能を越えることが予想される場合は、使用本数を増やして対応して下さい。



● 持ち運んだり移動させる場合、引きずったり放り投げないで下さい。破損するおそれがあります。



● バックルの巻き取り軸と歯車の部分に定期的に注油をして下さい。油が切れるとハンドルが固くなり、操作性が低下してしまいます。



● ラチェットタイプをご使用の際、ベルトを巻き取り軸に巻き過ぎるとレバー操作が出来なくなります。巻き取り前に余分なゆるみが生じないように確実に操作して下さい。



● 荷締め作業は足場の良い場所で行って下さい。不安定な足場や体勢での作業は転落の危険があります。

● 始業前には必ず点検して下さい。点検の結果廃棄と判定されたラッシングは補修したりして再使用しないで下さい。

3 保管にあたって



● 使用しない場合は、太陽光、紫外線などの影響を受けず、清潔で乾燥しよく換気された温度が均一の部屋の中で、熱源、薬品、溶剤から離れた非腐食性の棚などに置いて保管して下さい。

● 保管前に使用時に起こりえた損傷の有無を調べて下さい。損傷が認められた場合は、4点検にあたっての中の「インカ・ラッシングシステム点検基準」により廃棄して下さい。

4 点検にあたって

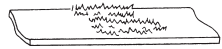

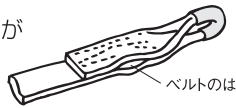



● コーナーパットを使用している場合はコーナーパットを移動させて隠れているベルト部分及びコーナーパット自体も点検して下さい。  
● 使用ごとに適切な検査を行い、具体的には以下の点検基準により継続使用可能かどうか確認して下さい。

インカ・ラッシングシステム点検基準

インカ・ラッシングシステムは、日常点検を必ず行って使用して下さい。  
・日常点検 使用前に行う点検をいう。

点検項目、点検方法及び廃棄基準は、下記の通りです。

点 検 項 目		点検方法	廃 棄 基 準
ベ ル ト	ベルト本体 (コーナーパットを移動させて隠れている本体部分も点検して下さい)	目 視	①織目がわからないほど毛羽立ったり、たて糸の損傷が認められるもの。  ②幅方向に幅の1/10、又は厚さ方向に1/5に相当する切り傷、すり傷、ひっかけ傷などが認められるもの。 
	ベルト縫製部	目 視	①目立った切り傷、すり傷、ひっかけ傷などが認められるもの。 ②縫糸が切断、ベルトのはく(剥)離が少しでも認められるもの。 
バ ッ ク ル	バックル本体	目 視	①バックル本体に著しい変形、傷、摩耗、き裂、損傷、さびのあるもの。 ②バックル本体の部品(ボルト、ナット、ピン、リベット、バネ等)が脱落しているもの。
		感 覚	③動きがスムーズではないもの。 (動きが悪い場合は、作動部にマシン油を塗布して下さい。)
端 末 仕 様	金具仕様	目 視	①端末金具本体に著しい変形、傷、摩耗、き裂、損傷、さびのあるもの。
	繊維(アイ)仕様	目 視	①縫い目がわからないほど毛羽立ったり、たて糸の損傷が認められるもの。 ②縫糸が切断して、アイの形状が保たれないもの。 
部 品	コーナーパット	目 視	①損傷して穴が開いているもの。 ②エッジが破れているもの。